

外部専門員ニュース 第7号

令和6年11月15日
都立清瀬特別支援学校
校長 稗田 知子

今回の外部専門員ニュースは中学部2・3年生の農園芸班の作業学習で御指導いただいている高橋先生より、作業学習で取り組んでいる野菜作りなどのから「指導の工夫」について御紹介させていただきます。

○タネまき

花やなどは、ポットと呼ばれる黒いプラスチックの容器にタネを植えます。例外として、ダイコン、ニンジン、カブなど根を収穫する野菜類は、植え替えをすると根が切れて枝わかれをして太ってしまい、よい作物が得られないため、収穫する場所にタネをまきます。



～タネまきのスモールステップ指導～

ポットにタネをまく際は、写真1のようなペットボトルの飲み口を逆さにしたものや円柱の筒を使用しています。小さなタネをポットの中心にピンポイントでまくために、始めは口の広いペットボトル(ステップ1)を使用し、円柱の筒(ステップ2)とレベルアップを図っています。



写真1



ステップ1



ステップ2

○間引き

タネまき後、完全に双葉が開いたところに、形のよいものを1か所3本ずつ残します。本葉2～3枚の頃に2本残し、最後は本葉6～7枚の頃1本にします。この作業を間引きといい、よいダイコンを育てるために大切な作業です。

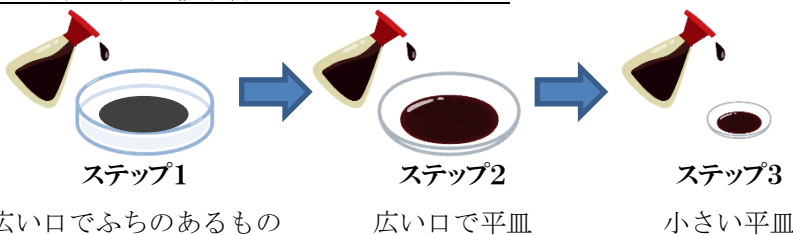
～間引きの際の視覚支援～

間引く株を見分ける際に、見て分かる工夫として間引く株の実物や写真を見せることで視覚的に分かりやすくしています。

スモールステップ支援を活用したお手伝いの方法

お手伝いをさせたいけど、失敗体験はさせたくないし...というときにその子に合った段階を見つけ、提示してみてもいいでしょうか。タネまきの指導の工夫にあった大きな口の物から小さな口の物に入れることを応用すると...

例 容器に開け移す際のスモールステップ



使用するアイテムの特徴を知るとより失敗しにくいかもかもしれません。



たくさん出る。
量の調整が必要。



量を調整できる。
押す力が必要。

農園芸班で収穫した秋ダイコンは、作業販売の学習で販売する予定です。生徒たちが、一生懸命育てたダイコンをぜひご覧いただき、ご購入された際には、感想を生徒たちに伝えていただくと、今後の励みになります。